

2022年度

事業計画書

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月 31日

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝 2500 番地

目 次

I.事業目的	3
II.2022年度の事業環境と基調	3
III.事業計画		
■チャレンジ支援事業		
1. スポーツチャレンジ助成 (公1)	4
2. 表彰(スポーツチャレンジ賞) (公3)	5
■体験促進事業		
1. 各種体験事業 (公2)		
(1)ジュニアヨットスクール葉山	5
(2)セーリング競技会	5
(3)全国児童水辺の風景画コンテスト	6
(4)教材の提供	6
(5)その他体験プログラム	6
2. 調査研究 (公3)	7
■事業共通		
1. 事業広報その他情報発信 (公3)	7

I. 事業目的

当財団は、教育、スポーツ等を通じて児童・青少年の健全な育成を図り、国民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養すること、ならびにスポーツと深い関わりのある人間科学、スポーツ医学等の学術及び科学技術の振興を図り、併せて我が国におけるスポーツの普及・振興とスポーツ文化の振興・発展を図ることを目的としています。

II. 2022年度の事業環境と基調

- 全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、日本においては昨年終わり頃から、その収束が見えたかに思われましたが、2022年に入った現在も新たな変異株オミクロンを伴う第6波となって爆発的な感染拡大が続き、医療、社会経済、国民生活の全般において困難で先が見通せない状況が続いており、一日でも早い終息と穏やかな日常生活に戻ることが切望されています。
 - 2021年のスポーツ分野では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で1年延期となった東京五輪・パラリンピックが「第5波」となる感染拡大で緊急事態宣言が発令される中、原則無観客で開催され、日本は卓球混合ダブルスで磐田市出身の水谷隼、伊藤美誠ペアが五輪卓球競技初の金メダルを手にしたほか、過去最多となる58個のメダル獲得。パラリンピックでも日本史上2番目に多い51個のメダルを獲得するなど、困難な環境の中で開催された両大会においても各選手は大きな輝きを見せてくれました。
 - 2021年度の当財団事業は、前年に続くコロナ禍の下、助成事業では、オンラインと対面を駆使(ハイブリッド方式)して開催した15期各種報告会は、多くの審査委員の参加を得て活発で有意義な議論が行われました。体験事業では、ジュニアヨットスクール葉山が断続的に延べ6か月間に亘る休校を余儀なくされました。全国児童水辺の風景画コンテストには、過去最多1.8万名超の児童が参加しました。将来の体験事業にヒントを得たユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験。啓発事業では、スポーツチャレンジ賞受賞者の功績や足跡を紹介した情報に共感が広がり、調査研究ではオンラインヒアリング調査など精力的に展開してきました。ハイブリッド方式で開催した理事会・定時評議員会、評議員選定委員会の書面決議など、全体として制約多い環境の中ですが、役員・関係の皆様のご協力を得て、概ね当初計画に沿って展開中です。
 - 2021年度当財団設立15年の節目に際し、①スポーツ振興と人材育成という事業目的の下に、これまで5年ごとに設定した「参加」「認知」「波及」をテーマとする事業の成果と課題を振り返るとともに、②国のスポーツ基本計画等との連動性を高め、未来人材の育成を鮮明にした「チャレンジ支援事業」。子どもたちのスポーツ体験や自然体験の増進を目的とした「体験促進事業」という2事業への再編を柱とする2022年度からの5年間の中期事業方針(バリュー5)を策定しました。
 - 2022年度は、次期中期事業方針(バリュー5)の1年目として、「チャレンジ支援」「体験促進」各事業の推進体制の整備や事業内・事業間でのシナジーを高めつつ、持続的な事業の質と社会的価値の向上に努めていきます。
- 引き続きコロナ禍の影響を受けざるを得ないと捉えています。子どもたちや参加者、関係の方々の安全を最優先し、適切な見直し、調整を加えながら事業を運営していく所存です。
- 日頃、当財団の事業を縁の下から支えて下さっている関係の皆様にご改めて感謝を申し上げますとともに、引き続きご支援をお願い申し上げます。

Ⅲ.事業計画

■チャレンジ支援事業

本事業は、将来、スポーツ振興及びスポーツ文化の発展を担う人材にとっての重要な成長機会と言える「挑戦（チャレンジ）」に焦点をあて、チャレンジャーを支援する助成事業とチャレンジを称賛し奨励する表彰事業に再編します。また相互のシナジーを高めることで事業の質を向上させ、チャレンジする人々を総合的に支援する事業として展開していきます。

1. スポーツチャレンジ助成事業（公1）

スポーツ振興及びスポーツ文化の発展において、将来、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目的に、スポーツに関わる技能・体力の向上、その他実践的な活動、及び学術的な研究に対する助成を行います。

(1) 体験・研究助成

スポーツを通じて夢・目標の実現に向かってチャレンジするアスリート、指導者、審判など幅広いスポーツ関連分野から、高い志、明確な目的・目標、具体的な計画を持った、チャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動への助成、及びスポーツ医・科学、スポーツ文化など分野を対象に、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動への助成を行います。

○第16期では、体験助成(アドバンスド・ベーシック・ジュニア)14件、研究助成(基本・奨励)17件、計31件を対象者として助成し、その活動を支援していきます。

○第17期生の募集は、9月初旬から10月下旬に行い、書類審査、面接審査を経て、翌年2月末までに対象者を決定し、助成金贈呈式を3月予定のスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにて行います。

(2) 助成事業の一環としてのフォローアップ活動

助成対象者に対しては、目標管理(PDCA)を基軸とする年間を通じたフォローアップとして、期中での四半期毎の報告書提出、中間報告会への参加、及び1年間のチャレンジ成果を発表する成果報告会への参加を要請します。

○フォローアップ活動は、助成対象者のチャレンジを支援すると共に、スポーツにかかわる者としての人間的な成長をも支援することを目的とするもので、異分野の交流や講演会等を開催するなど、参加者にとって相互刺激や気づきの機会を提供します。

- ・ 助成対象者の活動に理解を深め、関係者間の情報共有を促進するための事務局による訪問活動。
- ・ 四半期ごとの報告書提出と中間報告会への参加（2022年10月予定）
- ・ 第16回 スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングへの参加（2023年3月予定）

○スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでは、スポーツにかかわる人たちのレベル向上や意識向上などを目的に、参加者一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会となるよう、異分野交流等の機会を設け、その様子はスポーツにかかわる人たちへの参考情報として、ホームページ等を通じて広く社会に情報発信していきます。

○本事業の社会的な認知向上を図るため、募集段階等において競技団体や大学等に事業趣旨や特徴等の分かりやすい情報発信に努めるとともに、OB・OGを含めた助成対象者間での交流促進などチャレンジャー視点でのプログラムの活性化と質的向上に引き続き取り組んでいきます。

2. 表彰(スポーツチャレンジ賞) (公3)

スポーツの普及・振興に功績をあげた、「縁の下の力持ち」的な個人・団体を表彰する制度で、チャレンジスピリットあふれる受賞者の足跡やその実像を通して、挑戦(チャレンジ)することの尊さや大切さを社会に伝播することを目的としています。

今年度から「チャレンジ支援(事業)」の趣旨を踏まえ、将来、更なる貢献が期待される個人・団体を、表彰します。

- 2021年度表彰対象者の発表を2022年3月に行い、表彰式(贈呈式)は5月開催を予定しています。
- 2022年度は、報道機関、スポーツ競技団体、大学等からの推薦又は候補者情報を募り、審査委員会の審議を経て、翌年3月末までに表彰対象者を決定します。
- ホームページ(スペシャルコンテンツ「BACK STORIES」)をはじめ、各種媒体を通じて受賞者の功績やチャレンジの足跡などを広く社会に紹介していきます。

■体験促進事業

本事業は、近年、子どもたちの体力・運動能力の低下や水辺・自然体験の機会減少が社会的に懸念されている中で、将来を担う児童・青少年にとっての重要な成長(育成)機会と言えるスポーツや自然の中での「体験(親しむ)」に焦点を当て、スポーツ体験や自然体験を通じた心身ともに健全な児童・青少年の育成及び支援する事業として、これらの体験活動がより身近なものとなる各種体験機会等を提供します。また、その意義や内容は、ホームページその他媒体を通じて情報公開します。その他体験プログラムは、社会環境や実践現場のニーズ等を踏まえ、当該プログラムの性格に応じた適切な形態・方法により柔軟に運営します。

1. 各種体験事業 (公2)

(1)ジュニアヨットスクール(セーリングスポーツ体験)

セーリングスポーツを通じた心身ともに健全で逞しい児童・青少年の育成を目的に、通年型ヨットスクールを神奈川県葉山町で運営します。

- 本スクールでは、受講生のセーリング技能に応じたクラスを設定し、年間カリキュラムに沿って専門的な知識・技能を有し、経験豊富な所属コーチが指導にあたります。

また、水辺の安全など現代の子どもたちに必要とされる水辺の体験活動や、海洋・海事に関する知識を含め、特色あるプログラムを通じて子どもたちの成長を支援しています。

- ・水辺の安全学習 7月開催(日本ライフセービング協会と連携)
- ・夏季合宿 7~8月開催
- ・2023年3月「第31回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」への参加
- ・葉山周辺で開催される競技会への参加など

- スクール生の成長や活動の充実に向け、指導者、保護者が連携協力してスクール運営にあたります。

(2)セーリング競技会(セーリング競技体験)

セーリングスポーツ体験の一環として、セーリングに取り組む全国の児童・青少年を対象に、1年間のトレーニング成果や課題の確認、技術指導、交流等を目的に「学べるレガッタ」としてセーリング競技会を春休みの時期に浜名湖で開催します。

- 第31回セーリング・チャレンジカップIN浜名湖は、2022年12月から全国47都道府県セーリング連盟を通じて募集を行い、2023年3月の開催を予定しています。(会場: 県立三ヶ日青年の家)
競技会の運営には静岡県セーリング連盟の協力を得て行います。
- 競技期間中には、選手や指導者を対象とした技術指導や学習会等を開催するなど、研鑽と交流を深める場としての役割も果たしていきます。
- 本競技会は、児童・青少年の成長を支援する大会として、その趣旨に沿った艇種や運営方法の見直しを行っていきます。

(3) 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催(自然体験)

子どもたちが自然と触れ合い、自然の中で活動するきっかけを提供することを目的に、「水辺の体験(活動)」をテーマとした絵画コンテストを開催します。

- 第34回となる今年度コンテストは、6月～9月に全国の幼稚園、小学校等を対象に作品を募集。
作品応募を受け、専門家、協賛団体、各省庁による審査会を10月に開催。
入選作品及び4大臣賞をはじめとする約20点の入賞作品を決定し、12月に表彰を予定しています。
- 入賞作品は、ホームページ等を通じて展示公開するとともに、模範的な活動事例は、ホームページ等を通じて広く社会に紹介するなど、体験することの楽しさや大切さをより広く社会に訴求していきます。
- 今年度は、子どもたちの体験活動を更に増進する目的から、これまでの水辺体験から自然体験の機会(分野)に広げたコンセプトでのプログラムの見直しを検討していきます。

(4) 教材の提供(体験活動に必要な教材の提供)

スポーツ体験等を通じて子どもたちの心身ともに健全な成長を支援することを目的に、事業趣旨に賛同し活動する全国の幼稚園、小学校等を対象に参加校を募集し教材を提供します。

- 今年度16年目を迎えるスポーツ教材の提供は、2月に提供教材の内容・募集要項をホームページや都道府県教育委員会等を経由し案内。4月下旬の抽選会を経て、約120団体の提供先を決定します。
- 提供先団体の活用報告や現場取材などをもとに、スポーツ教材の模範的な活用事例は、ホームページ等を通じて広く社会に紹介し、スポーツを体験することの楽しさや大切さをより広く社会に訴求していきます。
- 子どもたちの体力・運動能力向上のための課題認識や、学校等における教材の活用実態やニーズ、当財団の他の事業活動との連携を踏まえ、年度ごとに教材の見直しを行っていきます。

(5) その他体験プログラム

子どもたちが楽しくスポーツ体験や自然体験ができる、きっかけとなる各種プログラムを静岡県下の小中学校等と協力して開催します。

模範的な活動事例は、ホームページなど各種媒体を通じて、広く社会に紹介していきます。

ユニバーサル・スポーツ体験会「チャレンジ! ユニ★スポ」の開催

- 障害の有無に関わらず、一緒に楽しみ実践できるスポーツとして「ユニバーサル・スポーツ」があります。
子どもたちがユニバーサル・スポーツの体験を通して、共生社会を学ぶキッカケづくりを目的として、2019年度から調査研究活動の一環として開催している本体験会は、小学校等のニーズを踏まえ、(公財)静岡県障害者スポーツ協会の協力を得て、応募のあった県下小中学校を対象に開催します。

2022年度は、前年度に続き、障害者スポーツ「ボッチャの体験授業」を開催します。

○静岡県西部地域3市1町の小学校等を対象に2014年から巡回指導として実施してきました「はじめてのタグラグビー体験会」は、ほぼ当初の予定を完了したことにともない昨年度をもって終了します。

また、2020年度以降、コロナ禍の影響を受けて開催していない「親子で学ぶ水辺の体験会」は、これまでの成果や課題、地域ニーズなどを踏まえ今後に向けた見直し検討を行っていきます。

2. 調査研究 (公3)

当財団のこれまでの事業経験を下に、スポーツの普及・振興にかかわる実態把握や諸課題の解決に寄与することを目的として、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果を広く社会に情報発信し、社会活用を促進していきます。

この活動においては、現場ニーズを起点に、「現場で活用しやすいアウトプット」を大切な視点とし、情報の受け手の目線に立った、より分かり易い情報発信に努めていきます。

○スポーツ振興に寄与する各種課題等に関する調査研究。

・障害者スポーツプロジェクト

当該テーマに精通する専門家で構成するプロジェクトを組成して調査活動を実施。明らかになった実態や課題・改善の方向性などについて、シンポジウム等を通じた当該分野関係者との共有や、一般への情報発信を行います。

○子どもたちのスポーツ体験・自然体験の促進やプログラムの企画開発に必要な調査等。

■ 事業共通

事業広報その他情報発信 (公3)

当財団の事業活動の意義や活動内容等について、ホームページなどを通じてスポーツのもつ多面的な価値・有用性についてより広く社会に情報発信していきます。

○以下の内容を中心に、タイムリーで分かりやすい情報提供に努めていきます。

- ・スポーツチャレンジ助成における助成対象者のチャレンジへの思い、実像、活動などの紹介
- ・スポーツチャレンジ賞受賞者の功績・足跡を紹介する「BACK STORIES」
- ・ジュニアヨットスクール葉山での子どもたちの活動の様子
- ・スポーツ教材提供先や水辺の風景画コンテスト参加団体の活動事例
- ・調査研究活動の成果としての報告書やシンポジウムなどの情報

○各種行事開催の案内や募集、報告などに関するニュース・リリースの発行。

○財団関係者、支援者の当財団事業への理解を促進するため、会報誌「YMFS 通信」を毎月発行するほか、SNSを活用したタイムリーな情報発信を行っていきます。

○以上に加え、当財団事業への理解促進を図るため、引き続き情報内容の充実に努めるとともに、当財団の事業を支援して下さる団体や、スポーツ関係団体、報道機関などとの継続したリレーションシップの強化を着実に進めていきます。